令和2年度 第5回 碧南市介護保険運営協議会会議録

1 日時

令和2年11月17日（火） 午後1時30分～午後2時20分

2 場所

碧南市役所 2階 談話室1・2

3 出席者

(1) 委員 禰宜田知司、河原厚司、永坂幸子、大田康博、堀尾静、水野博史
下村美幸、沢井智美、齋藤健、藤田敏江、山田正教、佐藤洋一、
片山一也、磯貝靖子、高松好美、磯貝厚子、伊藤久美子、井上卓、
小林清彦

(計19名)

(2) 事務局職員 健康推進部長 山本政裕、高齢介護課長 三島翁
健康課長 磯貝幸満
高齢介護課課長補佐 杉浦洋子、高齢介護課長補佐 小林圭介、
高齢介護課長補佐 鈴木美奈子
健康課成人保健係長 石川麻子、高齢介護課主査 石川 基
高齢介護課主事 林拓寛

(計9名)

(3) 株式会社サーベイリサーチセンター 杉田純一

4 傍聴者

1人

5 議題

(1) 高齢者ほっとプラン素案について（資料1）

6 議事録

【事務局】

開会の挨拶

【会長】

あいさつ

【事務局】

議題(1)の説明

【A委員】

88ページの進捗管理のところ、全体を直していただいて、分かりやすくなったと思っています。

その中で、1つ質問がありまして、下の表の、介護給付費通知の提供月数とありまして、84ページを見ると、12月と書いてあるんですけども、これは毎月送付して12回やるのか、それとも、12月に1回送付するのどちらでしょうか。

【事務局】

84ページの⑤介護給付費通知については、年3回に分けて全12月分を全利用者の皆さんに通知させていただくということで、提供月は12月、ただし、4月分ごとを年3回に分けて通知させていただく予定であります。4ヶ月に1回、4ヶ月分の利用料の通知が届くということになっております。

【A委員】

もう一点、88ページにケアプラン点検事業数とありますが、事業所数かなと思いますが、いかがでしょうか。

【事務局】

ケアプラン点検事業所数に訂正させていただきます。

【B委員】

80ページですけれども、小規模多機能型居宅介護等の整備目標について、努力してくださっていることは熟知しているのですが、どうしてもここが、前回の計画を立てるときも、開設のためにどうしたらいいかということが具体的に出てきていなくて、今回も前回の会議のときに積極的にその部分は皆さんで議論していきたいという意見が出ました。

具体的に事業所が手を挙げるためにはどういう策が必要なのかということを考えるにはとてもいい機会じゃないかなと感じています。その点に関してはどうでしょうか。

新しい事業所が名のり出やすいような策だとかを、前回はこの場で話し合うべきじゃないかという意見があり、そういうやり方が一番良いのではないかと思います。他にも方法はあるかと思いますが、もうちょっと何か対策が必要ではないかと思います。

【事務局】

実際に計画を立てて、それが実行できていないという状況の中で、いいやり方がないか皆さんで考えていきたいという御意見だと思います。計画作成後も、計画を実行していくという段階があります。第6回や次年度に公募をかけていくときについて、こういったやり方やこういった周知の仕方がいいという意見を皆様にもまた聞いていきたいと思っています。

【C委員】

ここに載っている事業自体が、会議に参加している全員の総意で必要だと思っているものだと理解しております。ただ、それが複数期にわたって掲載され続けている現状をどのように事務局として捉えているのか、それはお聞きしたいと思っております。

そして、前回の会議にもありましたように、アンケートでも人材マネジメント上の問題ということで、一番に挙がっているところはやはり職員の確保ということだと思います。

また、この事業の周知をしていくという話がありましたが、多分事業者さんとしては、この事業の必要性等は十分理解、周知されている前提でありながら、手が挙げられないと私は捉えております。

もしそこにずれがあり、周知がされていないということであれば、周知を徹底するという対応策が必要だと思います。しかし、周知されているにもかかわらず、3期以上にわたってこれが事業の整備ができていないという現状があるのであれば、対応策というものは変わると思います。

その対応策についてこの場で協議をするのか、それとも別で協議をするのかということはまた検討が必要であり、この会議の場でそれを決定する必要性はあると思います。

そして、行政と話すときには、介護サービス機関連絡協議会の方の参加が欠かせないと思います。

【D委員】

3点ほど行政に対する御質問と、それから提案をさせていただきたいと思います。まず1点目ですが、17ページ、介護サービスの利用状況について、この中で受給状況でございますが、認定を受けるということは、受給というか利用、これを目的として介護認定申請をされると思います。ここで見ていきますと、認定者数が2,670で、サービス受給者の数が2,100超、要は500余りは利用していないにもかかわらず申請してみえる、これを本市としてどう考えてみえるのか。

2点目ですが、60ページの地域における支援活動の活発化の中にこういう記載はどうかという質問です。地域といいますのは、民生委員とか社協とか、各種の活動団体との連携や情報交換というふうに記載されております。この中で、いわゆる自治会、自治会の中に自主防災会が含まれておるわけでございますが、この自治会という文言は、各種活動団体に含まれておるからいいということなのか、そこをお尋ねできればと思います。

最後になりますが、88ページ、進捗管理について、初段にPDCAサイクルの活用とありますが、プラン、実施、チェックまではよろしいかと思いますが、最後のアクション、ここはどのように考えてみえるのか。

【事務局】

1点目について、17ページの介護サービス利用状況で、認定者が2,670に対して、受給利用者が400数名少ないと思います。認定者数というのが、認定を受けている方ですが、一部住宅改修のみをやりたい方等もいらっしゃるもので、その後にサービスを利用されないケースもあります。また、認定を受けられましたけれども、実際にサービス利用に結びついていないケースもあるかと思えます。福祉用具の購入や住宅改修に介護保険を使いたいということで使われて、他のサービスは使われないケースもかなりあります。

次に、3点目の88ページですがPDCAサイクルのアクションについては、今後計画作成後、毎年運営協議会の方ではこの計画の進捗状況の管理をしていきますので、その中でどういったアクションができていけるのかどうかは検討させていただきたいと考えております。

【事務局】

60ページについて、実際に地域で会議を行うときも、町内会長さんに出ているだいたり、既に密接に連携させてもらいながら行っているところです。民生委員の次に、社会福祉協議会、各種活動団体の部分に自治会とか、町内会とか、そういった言葉も入れたらどうかという御提案については一度検討させていただきます。

【C委員】

88ページのPDCAサイクルの進捗管理という中で、1つお願いが最初にございます。やはり進捗管理をするには、具体的な数字がないとできた、できないの判断をできないと思っております。そういった中、87ページの介護人材の確保・資質の向上で、介護職員らの確保、募集、採用が半分近くの事業所が困難だと、課題を感じている現状がまずあります。

こういった中で、まず、よい職場というのは、リーダーの育成だということで、人材育成のための研究会であるとか、そういったものをされているかと思えます。

ただ、そもそも人がいないという課題に対してこれはなかなか実効性がないと思っております。そして、不足しているというのをどれくらい不足しているのかという実数の管理もしないといけないのではないかと思います。

そういった意味で、前回、介護職員が不足しているのであれば、そしてまた、小規模多機能も含めた、これから高齢者が予想よりも多く増えている現状を踏まえると、どれほどの介護サービスが必要である、そして、どれくらいの人が必要なのかという具体的な数字を見ながら進捗管理をしなければ、地域の高齢の方も含めて地域課題の解決ができないのではないかと思います。

そこで、数をきちんと明確にすること、そして、この77ページの人材確保・資質の向上については、支援策を検討するではなく、支援策を検討し実施するという、やはり実施という言葉が必要ではないかと思っております。

最後に、想定よりも高齢化率が進んでいっている中、それに対する財源がありません。必要な方がたくさんいるので、必要なサービスを今後もつくっていくのか、それとも、そうはいつでも、やはり財政の問題があるので、必要だけれども、これは諦めなければいけないという議論をこの場であまりされていないと感じております。お金のことは考えずに、こういった課題があるので、これから数も増えるし、これ

だけのことをやりましょうという、高度成長期の右肩上がりの財源のような中でやっていくべきなのかというところは常に課題だと思っております。

また、年齢ではなく、元気な方にはもっと地域のためにいろいろ頑張ってもらおうという、そういったほうが我々の次の世代の子たちにツケを回す量を減らせるんじゃないかなと、そんな未来も考えていきたいなと個人的には思っている次第です。

【E委員】

先ほどの小規模多機能がなぜ計画に載っているのになかなか進捗しないかという問題については、全国でもそういった地域が依然ある中で、小規模多機能という制度自体の問題もやはりあるかと思えます。一般の利用者のアンケートの中でも、小規模多機能を利用したいかというアンケートについては比較的低いです。なおかつ、事業所がどうして手を挙げられないかというような、具体的な理由をまず皆さんに周知しなければいけないのかなと思えます。

例えば、会計的のところだとか、人の募集の部分もそうですし、利用者様の目線に立ったときの利用勝手の問題があるのか等、そういったことをもう一回皆さんに周知しないと、これになぜ事業所が手を挙げられないのかということが多分伝わらないのかなと思えます。

また、介護職員の不足というのは非常に慢性的な問題で、どういった職員が不足しているかと言われると、いわゆる夜勤をしたり、24時間365時間交代勤務のできるような職員が圧倒的に不足しています。その辺りをどうしていくかはなかなか答えがない状況ですので、それとは別に、やはりこの介護サービス連絡協議会を通じた、今いる職員の教育だとかは、やらなければならないかと思えますので、その辺りの新たな取組というのは必要なのかなと思えます。

ですので、今後は小規模多機能のそういった問題点は、やはり皆さんなぜ手を挙げられないかというのはなかなかこの会として分からないと思えますので、そういったことをまた調べて対応できるようにするほうがいいかなと感じました。

【事務局】

計画に掲げた施設整備については、介護サービスの運営協議会などもありますので、そういった場でも課題等をお聞きしながら、どうしたら整備に近づけるかといったことを今後話し合っていきたいと思えます。

それから、介護人材の確保という部分で、今後どれほどのサービスが必要で、どれぐらいの人材が必要かといったことについては、確かに根本的なお話なのかなと感じています。

この計画の中では、どれほどのサービスが必要かということについては、今後の高齢者の人数、また、認定者数で、これまでのサービスの給付・利用状況を勘案しながら、今後3年間のサービスの総量を、国から提供されるソフトがありまして、そのソフトに今後の認定者数等を入れると、サービス量が予測できます。そういったものでサービス量を見込んでいくわけですが、人材として何人必要なのかという部分になりますと、それぞれのサービスによって何人必要なのかといったところがかなり様々だと思います。そういった面で、介護人材が何人必要なのか等を目標として立てるということはなかなか難しいのではないかと感じております。

そういった中で、この計画の中では、具体的な事業を何回やっていきたいと思いますとか、参加人数を何人にしましょうということを具体的な目標に掲げまして、結果として認定者が増えていく上昇度を抑えることができたとか、そういった目標の形になっていると思います。そのため、目標値としては、具体的な事業の実施目標というような形で考えております。

最後に、介護人材の確保・資質の向上の部分の検討しますという表現を実施しますという表現にという御意見ですけれども、今後計画を進めていくに当たって、方向性は検討して考えていきたいと思っています。そういった中で、介護保険運営協議会や介護サービス連絡協議会の皆様の御意見をいただきながら、こういった形で実施していけるかという考えでありますので、御理解いただければと思っています。

【C委員】

ほっとプランでも、6ページに第8期計画のポイントとございます。この(1)に、サービスだけでなく人的基盤の整備と書かれております。私はこれを人材というふうにも捉えておりました。そして、目標というのは高くするからこそ達成できるものと思っていますので、ここに掲げる目標であるならば、高くても問題ないのではないかと考えております。

人材の話については、昨年3月の会議の中でも、人の数というものの目標値を出す必要があるという発言をさせていただきました。今回の87ページにある検討しますを実施しますという文言に変更できない理由を教えてくださいたいと思います。

【事務局】

87ページ①の今後の方向性というところで、この支援策を検討しますという部分ですが、この文章の中にはいろいろな課題が混ざっているかと思います。若い世代、また、外国人等、様々な人を対象にした介護職のPR、それから、就労支援、や高齢者の介護支援ボランティアというところで、確かにおっしゃっていただいている実施しますということであっても、100%じゃなくても、60%でもということであれば実施しますという記述も可能じゃないかということ御意見をいただいているのであれば、記述は可能なかと思います。けれども、先ほど申し上げたように、いろんな課題があって、全て実施できるかどうか分からないという状況の中での検討しますという表現になっております。一度この検討、実施しますというところの御意見については検討させていただければと思います。

【C委員】

前向きな言葉に変えていただきありがとうございます。
この介護士の確保、募集、採用には多くの事業所が課題を持っています。私自身も危機感を日々感じております。そして、スタッフや地域の方から課題を聞きながら、できないという判断をしなければならないことも日々ございます。そういった現状をもう少し御理解していただけると、先ほどの人的な数だとかを具体的にしてほしいという意見の背景が伝わるんじゃないかと思います。

【A委員】

5回に渡って検討を進めていただきまして、次回で一応最終になるということなので、次回には完全なものになっていくと思います。この会に参加させていただいて感じたのは、委員の方がかなり熱心に御発言をされている。他の市町でもこういった会議をやりますが、その中でも、碧南市の場合、計画作成の進捗が非常にスムーズに進んでいると思います。高齢介護課とか、事務局の皆さんが努力された結果だと思います。非常にスムーズにいい計画に結びついているなという印象を受けましたので、次回もまた楽しみにしております。よろしくお願いいたします。

議題終了

【事務局】

挨拶

終了